

新年のご挨拶

謹賀新年。

2014年は消費税増税（5%から8%へ）、社会保障制度の改悪（医療・介護・年金・保育など）が同時進行する年です。私たち、医療や介護の現場に働くものにとっても、国民、患者利用者にとっても厳しい年になりそうです。安倍政権は日本を世界で一番企業が活動しやすい国にするという経済優先の政策をひたすらすすめています。景気回復の恩恵を受けているのはほんの一部の大企業と富裕層のみで私たちにとっては生活の厳しさが増すばかりです。

このような時にこそ私たちの所属する医療団体（全日本民医連）のもつ綱領に立ち返り、今年も私たちの活動を見直しすすめていきたいと思えます。



- 一、人権を尊重し、共同の営みとしての医療と介護・福祉をすすめ、ひとびとのいのちと健康を守ります。
 - 二、地域・職域の人々と共に、医療機関・福祉施設等との連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます。
 - 三、国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます。
- 厳しいとき、困難な時にも決してあきらめず、多くの医療介護従事者、患者利用者みなさんと連帯し、希望の光を見いだす1年としたいと思います。

2014年1月 高松協同病院院長 田中 眞治

新年おめでとうございます。

昨年のあいさつでこんなことを書きました。

病棟生活やリハビリテーションの質の向上につとめていきたいと考えています。TVでも放映されたように、最近リハビリ分野では磁気刺激や電気刺激、促通療法など、効果的なリハビリ方法が実践されています。当院でも、効果の優れたリハビリ方法を積極的に導入し、よりよく、より早く自宅に帰れるような病棟を創っていきたく考えています。

いま思い返してみても、ここ最近、病棟の質の向上が図られていないことに愕然としています。患者様を寝かせきりにしない、着替えてお風呂に入り、トイレで排泄してきちんと歯を磨く。生活面でのアプローチはしっかりできており、それだけで元気になる人も多いのですが、リハビリそのものの向上がまだまだできていない1年でした。

2014年は、回復期病棟のリハマインドを維持しつつ、リハビリそのものや、リハビリ看護の質を向上させるようにつとめていきたいと考えています。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



2014年1月 高松協同病院 病棟医長 植木 昭彦

明けましておめでとうございます。

私が高松平和病院より高松協同病院に赴任してすでに3年が経過してまいりました。この間、医療の地域連携の中で大きな存在になっているこの協同病院で仕事ができることに誇りを感じるとともに、その責任の重さも実感する毎日です。

入院患者様やそのご家族、そして地域住民の方々の期待に応えるには、自分自身の知識や技術の向上はもちろんですが、リハスタッフ、看護・介護スタッフ、ソーシャルワーカー等すべての職種と協力してのチーム全体での成長が求められていると考えます。

患者様一人ひとりに真摯に向き合い、ADL及びQOLの向上を目指してさらなる努力を病院全体として続けていくよう頑張ります。

今年も何卒よろしくお願い申し上げます。



2014年1月 内科・リハビリテーション科 北原 孝夫

あなたの笑顔が見たいから

A氏、23歳男性。

大学を卒業して大阪のバイク便会社で働き始めたところで、事故に遭ってしまい、命は助かったものの両目を失明してしまいました。

当院に転院してきたときは、経管栄養で寝たきりで、少しの体動でも嘔吐・眩暈があり、とても離床は困難でした。A氏は大阪での一人暮らしを継続し、仕事復帰したいという願いがありました。

しかし、自分の置かれた状況を受容できずに、自分から良くなるとういう意欲もなく、少し甘えん坊の少年の様で疲れることやしんどい事を嫌がっていました。彼の今後の人生や生活を考えるとスタッフ一同胸が痛む思いでしたが、チーム一丸となって母親や本人の思いに寄り添って今後の生活目標に沿ったアプローチを行いました。

まずは、日常生活自立に取り組むことができる意欲を引き出すことでした。同世代のスタッフがうまく話題づくりをしたことで徐々に心を開いてくれ、コミュニケーションも徐々に取れるようになり、積極的にリハビリに取り組むようになりました。

また、入院生活の中での自立を目指し、母親も含めチームでの自立支援に取り組みました。白杖について屋内を移動することもできるようになり、排泄、食事、洗面、入浴、身の回りのことなどをできるだけ自分でできるよう支援しました。退院前になると病棟内での日常生

活はほぼ自立してできるようになりました。

大阪での一人暮らしの継続や職場復帰を目指し、視覚障害者のための専門的な生活訓練や職業訓練などを受ける為に、大阪の視覚障害者施設への入所となりました。退院時には、「7年後の東京オリンピックを目指す。」と宣誓して退院していきました。あの姿は入院当初のもし少年A氏ではなく、立派な大人の男性A氏へと成長していました。

そんなA氏が再び協同病院を訪ねてくれることをスタッフ一同は楽しみにしています。



健康まつり



11月3日に協同病院駐車場で第11回健康まつりが開催されました。

当日は天気が危ぶまれましたが、なんとか持ちこたえ利用者様、地域住民や組合員の皆さん900人が参加してくださいました。

メインステージでは、木太中学校のプラスバンドの演奏やキッズダンスにフラダンスなどの演目が行われ、来て下さった皆様を楽しませてくれました。

会場内では焼そばやぜんざい、かつしゃ焼き、おでん、氷いちご、スムージー、うどん、唐揚げの屋台がお腹を満たしてくれ、フリーマーケットではお買い物も楽しめました。

一般の方だけではなく入院患者様も参加され、「色々あるけん楽しいわ〜。」「こんなん買うたんてー。」と、いつもと違った笑顔を見ることができました。



第6回地域連携懇談会が開催されました

12月11日に第6回目となる地域連携懇談会（維持期事業所が対象）を開催しました。普段連携をとらせていただいている近隣地域の23名のケア・マネージャー（以下CM）の方々を含め40名の参加で懇談を行いました。

内容 13:30～15:30

- ①「地域ケア部NST活動のまとめ」
- ②「1～2時間通所リハビリテーションの取り組み・セラピスト選択制の効果」
- ③「息子の野球を見に行きたい」－本人のニーズを叶えられた成功症例－
- ④無料定額診療事業について
- ⑤グループディスカッション「これから求められる地域のかたちとは・・・」

上記のスケジュールにしたがって、当院の取り組み4題の報告と小グループに分かれての意見交換会を行いました。

CMからは、当院との連携は比較的取りやすい、退院までの連携がスムーズにできるので、在宅での生活準備が行いやすいなど感想をいただきました。反対にスタッフが忙しいのかカンファレンスに割く時間が以前より減った・・・という意見も頂き、よりコミュニケーションを密にとる工夫が必要であると感じました。

国が企図する医療・福祉の新たな連携の仲介役としてCMの存在が期待されるなかで、患者さまや利用者さまが地域でいきいき生活ができるようチームの一員として誠実に対応していきたいと感じました。

参加された皆様、ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



トピックス

第20回 香川民医連看護介護活動研究交流集会

先日10月20日に綾川アイレックスで第20回香川民医連看護介護活動研究交流集会が開催され、150名程の職員が参加しました。

「患者の生きるを支える私たちのたたかい」というテーマで記念講演と25演題（うち8演題が介護）の症例発表を行いました。

高松協同病院からは6演題発表しました。当院の発表演題は右一覧の通りです。様々な事例に対し患者利用者様に寄り添った取り組みが発表されました。

参加者の感想には「患者様のやる気をうまく引き出せてよかった」や「その人のありのままを受け入れて実践している点が伝わってきた」などの声が寄せられました。

それぞれ半年間かけてじっくり取り組んだ症例を報告する機会を得、より学びが深まり今後の実践に生かしていこうと思いを新たにしています。



- 「ボツリヌス療法とリハビリテーション看護」
－打ちっぱZEROに－
外来看護 高田 紀子
- 「若年高次脳機能障害者の自立支援に向けて」
－介護力軽減と家族を支える－
デイケア介護 久保 健司
- 「高次脳機能障害を乗り越え自己導尿の手技を獲得し自宅へ」
－大好きなお父さんや娘と一緒に暮らしたい－
東病棟A介護 福光 香
- 「見えよるで～」
－盲視状態患者の自宅復帰へのアプローチ－
東病棟B介護 橋本 佳保里
- 「息子の野球を見に行きたい」
－本人のニーズを叶えられた成功症例－
西病棟A介護 栗林 真人
- 「母ちゃん、シュークリーム買って」
－糖尿病を合併した脳出血の患者と家族への行動変容アプローチ－
西病棟B介護 松本 妥佳枝



地域ケア

通所リハビリテーション

新年おめでとうございます。
通所リハビリテーションでは、昨年4月より利用者様の受け入れを増やすため、

短時間3~4時間（13：00~16：30）から、
1~2時間【①13：00~14：30】【②14：40~16：10】
を2クールに移行しました。

6月からは個別リハビリを利用者様による自己選択、自己決定を導入しました。色々な取り組みをすることにより、スタッフのスキルや利用者様の満足度を高めて、サービスを提供できるよう今後もスタッフ一同心掛けていきたいと思っております。

今年も通所リハビリテーションをよろしく御願ひ致します。



介護支援センター協同



明けましておめでとうございます。

昨年、新しくケアマネジャーが入り、4人体制となりました。2人ともケアマネジャーとして勤務するのは初めてになります。

いろいろご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、温かく見守っていただけたらと思いますので、よろしくお願ひいたします。

ここで2人から一言♪

中留CM 35年ぶりの香川になるので香川での生活を
楽しみたいと思います。

大西CM いろんな人との会話を楽しみたいと思います。

訪問リハビリテーション科

あけましておめでとうございます。

さて、昨年は4月より訪問リハビリテーション科に従事している療法士全員が専従化され、合計8名（内、2名育児休暇中）で事業展開してまいりました。途中、現場が落ち着かない時期もありましたが、何とか皆で協力しながら乗り越えてきました。

昨年の傾向として、毎月2件程度紹介があり、サービス終了した利用者のうち、4割が他の介護サービスへ移行し、2割が改善等によるものでした。

今後も当事業所の基本理念である「笑顔のあるその人らしい生活が送れるように支援する」に則り、今後も皆さまの支援をいただきながらですが、組合員・地域へよりよいサービスを提供していきたいと思ひます。

どうぞ、本年もよろしくお願ひいたします。

高松協同病院 訪問リハビリテーション科
作業療法士 辻本 裕紀

